# 石すとーん・さーくる

No.120

発行　新潟県石仏の会（代表　星野　紀子）　2024年7月10日　発行
事務局　〒945-0837　柏崎市三島町16-2　渡邉三四一　電話0257-22-1941
ホームページ　http://niigata-sekibutu.voxx.jp


石仏散歩

## 地蔵尊と生活諸相

上越市　栗間啓志

一般的に石仏調査では、像容や寸法、銘文など物質的考証に比重があり、その精神的背景（想い・願い・祈りなど）や、造立趣意の究明については手薄に思われる。以下の二つの具体例は、現在の日常生活の中でも脈々と息づいている「地蔵信仰」の実態紹介です。

**◆身代わり地蔵尊**

これは上越市頸城区に在住する、親戚筋の婦人から届けられた手紙の原文です。

『（前段省略）実家の付近にもお地蔵さまがありました。それは山裾の清水が湧き出る静かな所に、赤い頭巾を被り赤い前掛け姿をしていました。顔立ちはやさしく、その前を通る時、子供ながら自然と両手を合わせたものです。ただ、その赤い頭巾と前掛けは、誰が着せたのだろうか…？ と、長いこと気になっていました。

以来、数十年が経過して、すっかり忘れたままになっていました。所が、或る時思いがけずにその謎が解けたのです。私の店（美容院）に来ているあるお客さんが偶然に、そのことについて話しをしてくれたのです。実は、自分の子供が不治の病にかかり、医師からは命の補償はない…と宣告されて、居ても立ってもいられず、藁をも掴む思いで、その日から一日も欠かさずそのお地蔵さまにお参りをした…との事でした。所が、祈り願った手術は成功して、今は元気に暮らしているそうです。そのお礼に、毎年欠かさず頭巾と前掛けを作り続けてきましたが、自分も九十歳を過ぎてそれもできなくなってきました…、との事でした。』

この出来事は地蔵尊が、信者の身代わりとなって病苦を受け入れ衆生を救うとされる、治病信仰の実相事例です。

**◆水子地蔵尊**

次は、私の娘の友人の一身上にあった事象です。この友人夫婦は、訳あって堕胎とすることを決断しました。病院での処置は支障なく済み、予定日通りに退院しました。しかし、その日の夜からは毎晩、訳もなくうなされて熟睡することができず、睡眠不足もあって日中でも重苦しい気持ちが余儀なくされているとの事でした。　私はその様子を伺い、その友人に「水子地蔵をお参りしたらどうだろうか？」と、提案伝言しました。（次ページに続く）

身代わり地蔵尊（上越市頸城区）

その数日後、当人は某寺院に出向き、境内にある水子地蔵尊に向かい、両手を合わせてお参りしていると、なぜか湧き出るように涙があふれ落ちると共に、気持ちが次第に軽くなっていくような感覚が全身を覆ってきた…との事でした。　現在、当人は何事も無かったかの如く平穏に暮らしていると聞きます。

この出来事は地蔵尊を拝むことにより、小さな命を葬った贖罪からの浄化作用(水子供養)と理解されます。

**◆地蔵尊小論考**

地蔵尊には、前記の身代わり地蔵・水子地蔵の他に、夜泣き地蔵・子育て地蔵・火防地蔵・延命地蔵・波除け地蔵・雨乞い地蔵など多岐に及んでいる。これは、地蔵尊は如来等のように聖なる寺院の須弥壇にあって極楽浄土に祀られるのではなく、路傍や四辻、村境など民衆の日常生活の場に深く入り込み、多様な現世利益に寄り添った救済の導師であることに他ならないからであろう。

水子地蔵尊（参考画像）

# なだち2024 上越地区石仏見学会に参加して

船橋市　吉村　雅夫

快晴の中、23名の参加者を乗せたマイクロバスは、直江津を出発して西頸城の名立に向かいました。私は、名立はいつも通り過ぎるだけで、石仏に関しては殆んど知らないので是非参加したいと思っていました。

**◆稲取(盗)り地蔵尊**

名立の小泊の人たちが、能登から来た男に米をだまし取られた事に気が付き、殺害してしまうが、哀れに思った村の人達がその供養に建てたと伝わる民話を基にした地蔵尊で、名立と能登との歴史的関係を表しています。

**◆岩屋堂観音堂**

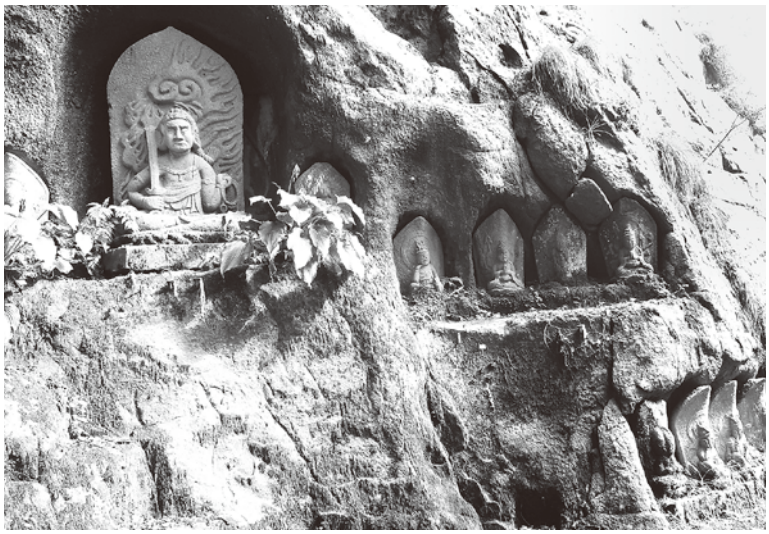
旧道の坂道を登って行くと、巨大な岩の隣にある観音堂は大宝2年、泰澄大師が創建したといわれ、「越後霊場第一番札所」となっている。霊場というだけあって、境内には江戸時代に造られた三十三観音像や阿弥陀三尊仏像、六地蔵、弥勒菩薩や如意輪観音など様々な尊像が立ち並び、見飽きることがない。特に印象に残るのは、今まで見たこともない光背に赤みが残った地蔵尊でした。

**◆善興寺**

真言宗から曹洞宗に改宗した寺で、境内にある石坂観音堂には鎌倉期の作と言われる「千手観音像」が安置されているが、この仏像は住職が一代のうち一回しか開帳されないとされている秘仏であり、残念ながら見ることはできなかった。境内に数多

岩屋堂観音堂にて

く配置されている地蔵菩薩のいずれも赤い頭巾をかぶっていたり、衣をつけていたのが印象的でした。


岩尾の石仏群

**◆岩尾の石仏群**

江戸時代末期に水難犠牲者が相次いだことを悼み、橋の下に観音様を一体置いた事から始まり、次々と川岸の壁に穴を掘り三十三体の観音像が置かれた光景は見事である。他の観音像より一段と大きい不動明王の彫刻が素晴らしかった。川岸の高所にどの様に穴をあけただろうかと不思議であった。

**◆八幡神社の一石六地蔵**

今回の見学会で最も興味深い場所だった。一つの巨大な石に六地蔵と如意輪観音が彫ってあるという珍しい石仏を見ることができました。それに加えて神仏習合の状態が当時のまま残っている珍しい場所だった。

鳥居のすぐわきに石仏があり、神社の建物の中には、神社と阿弥陀堂が並んでいるという現在では珍しい建物であるが、江戸時代まではこれが普通だったのだろう。初めて見る光景に驚いてしまった。明治時代の神仏分離をどのように逃れたのか知りたいところであった。

路傍の石仏を楽しむ

**◆一石二体の六地蔵尊**

一石に二体の地蔵が刻まれ、それが三石並んで六地蔵となる稀な六地蔵でした。

**◆機雷爆発慰霊地蔵**

戦後まだ日が浅い頃、名立海岸に漂着した戦争の残骸（機雷）が岩に触れ、一瞬にして63名の尊い命が犠牲となる悲惨な事件を悼み、造立された地蔵尊でした。

今回の見学会で、名立川の川沿いに住む人たちの信仰が、日常の生活に深く結び付いていたことが深く印象に残りました。又、車窓から幾つかの廃校となった校舎が見えましたが、それも時代の流れと知りました。

今回も素晴らしい見学会を企画・実行して頂いた上越地区実行委員会の皆さんにお礼を申し上げます。

## 一泊有志見学会のご案内

今年度は福島県の摩崖仏と村境に立つ防疫の神・人形様などを巡ります。詳しくは同封の案内チラシをご覧ください。

# 事務局だより

同封チラシの一泊有志見学会と左記の二つの地区見学会を計画しました。ぜひ、大勢のご参加をお持ちしております。

## ◆中越地区見学会のお知らせ

**日　時**　9月20日(金)8時00分～16時15分

**テーマ**　栃尾の石仏と史跡を歩く

**集　合**　①8時00分　アルフォーレ前駐車場（柏崎駅前・赤レンガ風トイレ前）
②8時50分　長岡駅東口（ホテルニューオオタニ前）
③9時25分　道の駅 とちおR290

**解　散**　道の駅 とちお15時、長岡駅東口15時25分、柏崎アルフォーレ16時15分

**見学地**　入塩川の陰陽石と双体道祖神（新発見）、山葵谷の宝篋印塔群、熊袋の板碑・五輪塔、梅野俣の彩色馬頭観音、上樫出の珍棒地蔵、秋葉神社周辺散策、小貫の外山家庭園・羽黒神社、栃堀の彩色双体道祖神など

**昼　食**　割烹・東雲（秋葉定食・油揚げ付き）

**参加費**　5500円（昼食・バス代含む）

**定　員**　20名

**申込み**　9月10日(火)締切り（先着順）
中越事務局　伊比卓郎まで
電話　090-7275-8869
Eメール　tnibi@poppy.ocn.ne.jp

## ◆下越・新潟地区見学会のお知らせ

**日　時**　10月18日(金)9時～16時

**テーマ**　新潟市北区砂丘地帯を中心に訪ねて

**集　合**　①9時00分 新潟駅南口観光バスロータリー
②9時40分　道の駅「豊栄」

**解　散**　「豊栄」15時20分、新潟駅16時

**見学地**　太郎代観音、上黒山石仏堂、不動寺安古左衛門観音、西郷隆盛宿営碑、内鳥見観音堂、太古山早通地蔵など

**昼　食**　東港 居食亭「ほうせい丸」

**参加費**　5000円（昼食・バス代含む）

**定　員**　20名

**申込み**　9月30日(月)締切り（先着順）
新潟事務局　堀内正子まで
電話　025-243-7640
携帯　090-6009-4682

## ◆令和6年度総会を開催しました

今年度総会を5月19日(日)、ながおか市民協働センター（協働ルーム）にて開催しました。

第一部の公開講演会は一般5名、会員31名の計36名でした。講師の十日町市博物館学芸員・髙橋由美子さんからは「雪国の暮らしと信仰―十日町市周辺の年中行事から―」と題し、雪国に伝承される年中行事の中から、十二山の神・釜神様など信仰行事や縮織りに使用するイザリバタの一部位（マネギ）を呪具に用いた旧中里村の「おかいれ」という珍しい建築儀礼などを、スライドや動画を交えてご紹介いただきました。雪深い妻有地方ならではの民俗から、改めて雪国の民俗文化の特質を知ることができました。

第二部の総会（14時40分～）では令和5年度事業報告・決算報告、役員改選、令和6年度事業計画・予算案が審議・承認されました。また資料保管担当として長く役員をお務めいただいた桑原和位氏が退任され、後任・新任については改めて役員会で選任することとなりました。

なお、欠席者へは総会資料を同封しますのでご確認ください。

講師の髙橋由美子さん

**お願い**　今年度の会費未納の方には振替用紙を同封しました。早めにご納入願います。

## 事務局から

創立31年目の最初の会報とあわせて、令和6年度総会資料、『石仏ふぉーらむ』15号、会費振替用紙、有志見学会チラシなどを同封いたしました。ご査収ください。

本号編集担当　上越地区事務局